

お寺版こども食堂開催とその意義

近藤玄純

一、超宗派仏教徒坊主道設立について

山梨県における寺院数は一五〇二ヶ寺（平成二十九年出版文化庁発行『宗教年鑑』）あり、人口十万人に対する寺院数は全国四位である。

二〇四五年における人口予測は八十一万人から六十万人を切り約三〇%減の試算が出ていることを考えると単純計算で檀家の三〇%が各寺院から減少すると言っても過言ではないだろう。寺院運営困難の理由はそれだけではなく世界規模での宗教離れ、また僧侶への批判、三〇〇〇万人市場と言われる終末期産業への新規プレイヤーの参入など枚挙にいとまがない。どれも責任の一端は僧侶が担っていることも忘れてはいけないうである。

平成二十八年十月、県内の若手僧侶において超宗派仏教徒「坊主道」を設立した。設立理由は私が平成二十八年に「未来の住職塾」を受講したことにある。経営学修士号を持つ浄土真宗本願寺派僧侶、松本紹圭塾長の元、寺院経営を一から見直し自坊の今後を考える塾である。入塾した経緯については控えるが、同期塾生との関係性が非常に有益だと感じた。

山梨県においても問題意識を共有し、情報交換また先述した問題解決を横断的かつ効果的に取り組みを行いたいと考え設立に至った。発足当時は日蓮宗、浄土宗、曹洞宗、臨済宗妙心寺派、真言宗智山派の伝統仏教教団五宗派十名

による構成でスタートした。単一のヒエラルキーを抜け出し、同じ目線で活動方針を考えている。発足当初は僧侶向けの研究会を各宗派から講師を招き開催してきた。大乘教団としての菩薩行たる活動、また寺院解放の一環としての事業を検討していたところ、全国各地で開催されている「こども食堂」を寺院にて開催することに至った。

二、お寺版こども食堂の開催経緯

こども食堂は全国的に広がり、現在二二〇ヶ所以上見受けられる。その多くは子供の貧困対策として講じられている。OECDの調査資料においても貧困率は十六%、約七人に一人は貧困であるという。全国二二〇ヶ所を超えるこども食堂はすでに社会インフラと言っても過言ではない。坊主道でもその活動に向けて調査を開始したところ運営上のいくつかの課題が浮かび上がってきた。その問題点とは以下の六点である。

- (1) スキームの構築
- (2) 初期投資と運転資金の持続性
- (3) スタッフ募集と量的持続性
- (4) 衛生面、安全面
- (5) テーマと対象設定
- (6) 集客
- (7) 保護者への対応（不正者も含む）

この問題点を確認しクリアするため、NPO法人全国寺子屋ネットワーク開催「横浜でらこや食堂」の視察をした。その構築されたシステムを参考にし平成二十九年十一月に坊主道会員寺院である甲斐市浄土宗功德院にて『寺GO飯』の開催に漕ぎ着けた。以来、十一回に渡り開催を続けて来た。各種メディアにも取り上げられ、認知度も向上し

つつある。周知集客などいくつかの問題点はあるが活動の根幹として今後も運営していく。

三、寺GO飯スタッフアンケートとその結果

平成二十九年十一月より平成三十年九月まで計十一回の寺GO飯の開催を行った。スタッフアンケートでは寺GO飯そのものについての質問や寺院、僧侶に関する質問、自身の意識変化などについて調査を行なった。紙面の都合上、全問は掲載できないが興味深い結果もいくつか散見できた。

以下にアンケート結果の抜粋を紹介する。

【寺GO飯スタッフアンケートの概要】

調査目的 寺GO飯の改善と寺院・僧侶の可能性調査

寺GO飯実施期間 平成二十九年十一月より平成三十年九月

調査対象 過去寺GO飯に参加したボランティアスタッフ

アンケート調査依頼数 僧侶十名 内七名回答 回答率七〇%

社会人一四名 内十二名回答 回答率八六%

大学生十五名 内十二名回答 回答率八九%

延べスタッフ数三十九名 回答率七九%

アンケート実施日 平成三十年九月下旬

質問内容 三パート構成 無記名インターネット調査

社会人、大学生等に対するアンケート

① 寺GO飯について

② スタッフの意識変化について（宗教・仏教・寺院・僧侶等について）

③ 寺院、僧侶の社会参画や回答者自身の問題意識について

僧侶（坊主道会員）に対するアンケート

① 寺GO飯について

② 自身の意識変化について（宗教・仏教・寺院・僧侶等は除く）

③ 寺院、僧侶の社会参画や回答者自身の問題意識について

以下に寺GO飯スタッフアンケートを元に一問ずつの考察を行う。会員を「僧侶」、社会人、大学生を「一般」と記す

尚、回答ゼロの選択肢は記載しない。

●寺GO飯にスタッフとして参加して満足していますか？

		非常に満足	満足	どちらでもない
僧侶	四二・九%	五七・一%		
一般	二九・二%	六二・五%	八・三%	

●答えた理由についてお書きください（記述式）

・お寺で学び、遊び、食育を子供達へ伝え、子供たちに喜んでもらいたい、保護者の方々にも色々なことを感

じて知ってもらいたいと主催者側の皆様が同じ気持ちでひとつのイベントを作り上げ成功させるために意見を交換し懸命に取り組んでいる姿に感銘を受けました。参加しお手伝い出来ること、子供達の笑顔が観られること、皆の気持ちの一つになり楽しく貴重な時間が過ごせることに感謝しております。

いろいろな方々と交流が出来るから。仏教の世界を少しづつ知ることが出来るから。子供達と接するのが楽しいから。

- ・お寺の方と接する機会が他にないため新鮮・子どもとの関わり方やお寺のことへの理解が深まる。
- ・普段の生活でなかなかお坊さんと関わる機会はなかったので嬉しいし子どもも好きで、自分の将来につながる良い経験だと思つたため。

●参加する前後で「ボランティア」に対するイメージは変わりましたか？

	変わった	変わらない
僧侶	四二・九%	五七・一%
一般	二〇・八%	七九・二%

●「変わった」と答えた方はボランティアに対するイメージがどの様に変化したかを答えてください。

「変わらない」と答えた方は現在のイメージをお答えください。

- ・正直、偽善だと思っていたが、今はボランティアは仏道だと思う。(僧侶)
- ・この活動の特異性はそこに仏教が関わり活動しながらでも法話や教えを聴くことができることで大なり小なり

り支えとなる部分があると思います。また、死についてのイメージが強い仏教において生の部分に関わる活動なのでボランティアとしては前向きに取り組む事ができると思います。

- ・私のボランティアの考え方は、見返りを考えない、謙虚な精神で参加させていただいて、本当に相手のためになっているか常に考えながら行動する。

●寺GO飯に参加する前後で「宗教」に対するイメージは変わりましたか？

※一般のみ回答

	変わった	変わらない
一般	六六・七%	三三・三%

●「変わった」と答えた方は宗教に対するイメージがどの様に变化したかをお答えください。

「変わらない」と答えた方は現在のイメージをお答えください。(記述式)

※一般のみ回答

- ・宗教により人との繋がりが出来、自身の心の癒しとなることを感じ、少し堅いイメージが柔らかいイメージになりました・少し近く感じるようになった。
- ・比較的、宗教に対して悪しきイメージが先行する事が多い世の中ですが、新興宗教や過激派の教義や活動との差別化を図っていきたいと思います。
- ・信仰する人たちだけのものではなく、実際に生活する人たち一人一人のためのものと認識が変わりました

・意外と固くない・身近にあるものだと思った・身近な存在となった。

●寺GO飯に参加する前後で「仏教」に対するイメージは変わりましたか？

※一般のみ回答

	変わった	変わらない
一般	五四・二%	四五・八%

●「変わった」と答えた方は仏教に対するイメージがどの様に变化したかをお答えください。

「変わらない」と答えた方は現在のイメージをお答えください。(記述式)

※一般のみ回答

・ 仏教には色々な宗派があり、寺GO飯に参加することでそれぞれの宗派のいいところを感じることが出来、
 仏教を更に深く知りたくなりました。
・ 宗派が違ってても、それらは対立している訳ではないということ。
・ 宗派によって壁があるのかと思っていました。寺GO飯に参加してそのイメージが薄くなりました。

●寺GO飯に参加する前後で「お寺」に対するイメージが変わりましたか？

※一般のみ回答

	変わった	変わらない
一般	七〇・八%	二九・二%

● 「変わった」と答えた方はお寺に対するイメージがどの様に变化したかを答えてください。

「変わらない」と答えた方は現在のイメージをお答えください。(記述式)

※一般のみ回答

- ・お寺は葬儀と法事だけをする場所というイメージから、お寺でイベントもする楽しい場所になりました。
- ・公益性の高い場所として、今後も幅広い方々に親しまれる存在であってほしい。
- ・Closedなイメージが真逆のopenなスペースなのだと一八〇度認識が変わりました。
- ・お寺と聞くと、敷居が高いイメージでしたが、今は「みんなが集まる場所」というイメージになりました。
- ・墓参りだけのお寺のイメージから地域の活動も行える場所なんだと変わりました。

● 寺GO飯に参加して「僧侶」に関するイメージは変わりましたか？

※一般のみ回答

	変わった	変わらない
一般	七〇・八%	二九・二%

● 「変わった」と答えた方は僧侶に対するイメージがどの様に变化したかを答えてください。

「変わらない」と答えた方は現在のイメージをお答えください。(記述式)

※一般のみ回答

- ・世のため人のために、考えを伝え、行動するイメージです。

・正直に申し上げると、浮世離れた部分を感じておりましたが全ての方ではありませんが良くも悪くも概ねイメージ通りだと感じております。給与所得者や経営者と比べると少し甘さを感じます。(こちら側にもそのような方は居ますが)

・超宗派での活動は素晴らしいです。

・近寄りがない存在だと思っていた。

・同じ人だなあとはいいますが、やっぱり自分の考えた事のない部分を仕事にしてる人達だとは感じます。

●寺GO飯に参加する前後であなたに気持ちの変化がありましたか？

	変わった	変わらない
僧侶	七一・四%	二八・六%
一般	六六・七%	三三・三%

●「変わった」と答えた方はどの様に変化したかをお答えください。

「変わらない」と答えた方はどの様な状態かお答えください(記述式)

・ボランティア、宗教、仏教、お坊さんの皆さんに対する認識が変わりました。社会に対して自分が出来ることってなんだろうと考えるようになったり、人対人の関わりがこんなにも温かいやりとりによって成り立っんだと知ることができました。皆さんから学んでることが多いです。私も活動の中でできる事を見つけ一員となっていきたいと思います。

・お寺のことも、仏教のことも、坊主の方々のことも、以前より好きになりました。

- ・社会課題の解決方法を主体的に考えるようになった。
- ・直接的な要因が寺GO飯かはわからないが、感謝する気持ちは増したように思う。
- ・いまの日本人にとって、仏教がどうあればいいのか、お寺がどのような役割を持てばいいのか、地域のあり方など考えるきっかけになりました。
- ・社会貢献の素晴らしさ、お寺・僧侶の可能性の深さに気付きました。(僧侶)
- ・どんなに良いと思っても行動に移さなければ絵空事です。労力は必要ですがお寺を守る住職だからこそ自分自身が動かなければお寺は変わりません。行動に移す事で共感して協力してくれる方達が声を掛けてくくれます。こんな機会をくれた坊主道に感謝申し上げます。(僧侶)
- ・人との繋がりが自分の心も豊かにする事を再認識した。(僧侶)

四、寺GO飯開催の意義

以上のように寺GO飯は進化を重ね開催一周年を迎えようとしている。

計画通りに進まない面もあるがスタッフ全員で楽しみながら運営している。一寺院では施設面、人材面、資金面と多くのハードルを越えなければならないがグループになることでそれらをクリアし質を担保できるメリットがある。複数人いることで意見調整が難しい場面もあるが課題意識という土台の上に宗派を超えることや属性を超える事は何ら問題が無く、各々が修行の場として活動している。

またアンケートの結果を見ても分かるように寺院で僧侶と「共働(きょうどう)」することでそれらの認識を変え得ることも可能なのだと感じている。それには僧侶が先頭に立った物心身の三面「布施行」と「利他行」を行じてい

く事は必要であると言わざるを得ない。坊主道や「共働」してくれているスタッフも寺GO飯を仏道修行として捉えていくことで物質的なハードルをクリアできている。

またその活動に賛同し企業や個人からのお布施をいただき活動資金としている。

参加者である子供達も毎回参加したいとの声も多く上がっている。一方で保護者が参加できない場合など車社会や共働き社会の中で参加が困難な子供達も多く存在する。そのあたりは今後の課題として取り組んでいきたい。

坊主道会員寺院の檀信徒からもその活動を応援するとの声が届き、その形は大小関係なく寺院が取り組む事は可能だと考えている。

昨今の寺院消滅の危機が叫ばれるようになり業態を変え対応を試みる寺院や僧侶もいる中で回答中にもあるように「利他」の実践を中心に据えていき僧侶が僧侶たる矜持を持つことが大事なかもしれない。また「寺院の公益性」が問題視される中、私たちが私益と共益を超えて、辞書にもあるように「社会公共の利益を図ることを目的とし営利を目的としない法人」になることがこの未曾有の危機を脱する一つの答えなのかもしれない。

五、坊主道と寺GO飯の今後

発足から二年を経過した坊主道だが、決められたことをただこなすのではなく、教義に基づき、社会課題に向き合い、テクノロジーを受け入れ硬直化しないよう活動を心がけている。十一月には寺GO飯を坊主道から主管を外し、「寺GO飯実行委員会」として僧俗一体の組織として生まれ変わる。僧俗が問題意識を共有し目的で繋がり、それを仏道修行として課題解決に、取り組ませていただけの集団^①になっていくことを目標としている。言い換えるならば「建物なきサンガ・建物なき寺院」を目指し活動していく。